同志社的こころ

奨励	佐伯 順子〔さえき・じゅんこ〕
奨励者紹介	同志社大学社会学部教授
研究テーマ	メディアの描く女性、男性像と その社会的・文化史的背景

兄弟たち、あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせずに、愛によって互いに仕えなさい。律法全体は、「隣人を自分のように愛しなさい」という一句によって全うされるからです。だが、互いにかみ合い、共食いしているのなら、互いに滅ぼされないように注意しなさい。

（ガラテヤの信徒への手紙　五章一三―一五節）

明治の理想主義と新島夫妻

本日は、同志社スピリット・ウィークにて奨励の機会をいただき、大変光栄に思っております。私は二〇〇二年に同志社にまいりまして、今年で八年目となりました。同志社の卒業生ではない私が、同志社のこころについてお話しするのもおこがましいのではと、最初は気がひけたのですが、私はかつて同志社と同じキリスト教主義の神戸女学院で学び、入社いたしましたときには、同じ空気が流れているという、ふるさとのような親近感を覚えました。また、同志社の卒業生ではない者の目から同志社についてお話をさせていただくことも、また何か意味があるのではないかと思い、お話を引き受けさせていただいた次第でございます。

社外から同志社にまいりまして、第一印象として今も大きく残っておりますのは、入社式の際に読み上げられた同志社大学設立の旨意です。新島が海外遊学の志を抱き、「国禁を犯し」て米国商船に乗ってアメリカにわたった。その勇気と熱意に胸をうたれました。この文章自体は徳富蘇峰によるものとされていますが、明治の文体というものはいかにも硬質で、新しい時代を切り拓こうとする挑戦の気持ちやエネルギーがじかに伝わってまいります。私はメディア学科で、明治・大正の女性雑誌を授業でとりあげておりますが、明治の文章は、その後の大正期のメディアの文体とはかなり趣きを異にし、ストレートに上昇志向が伝わってくる独特の迫力があります。そうした理想主義に燃えた明治人の典型の一人が、新島襄であるという思いを強くいたしました。

こうした理想主義は男性だけのものではありません。同じく明治期に、京都出身の岸田俊子が残した「同胞姉妹に告ぐ」（明治十七年五月）という文章があります。これも、「人間世界は男女をもて成りたるものにて、男子のみにて世の中を作るべからず」と、力強く男女平等を主張しています。新島と同じように、明治の女性も、自分のためではなく社会全体のために貢献しようとする上昇志向やチャレンジ精神がありました。実際、同志社の女子学生と接していると、そうした明治の女性のような闊達なエネルギーを感じることがあります。先日、新島の妻の八重が、初代ハンサム・ウーマンとしてメディアでも紹介されましたが、明治の教育の多くが男子エリート養成に傾き、女性が「良妻賢母」という枠組みにおしこめられてゆくなかで、そうした枠組みをこえる存在感を示した新島八重は、同志社精神の重要な体現者であると思います。

「人一人」とＪＲ事故

社会学部のメインキャンパスである新町キャンパスに、「人一人は大切なり」という新島の言葉がありますが、このことを強く意識するような出来事が、入社してからございました。今から四年前の四月、ＪＲ福知山線の事故があり、不幸にして本学の学生さんも命をおとされ、当時メディア学科に入学まもない女子学生の方もそこに含まれておりました。メディア学科としても、大変残念なことでした。その新入生の方は、たった一ヵ月弱しか、本学に通えなかったわけですが、たまたま私のゼミの女子学生がご本人と親しくしており、彼女は事故後まもなくから四年間ずっと、その方のご両親と連絡をとりあい、大学生活の話などをしながら、この三月に卒業していきました。卒業式の後その女子学生が、これからもおりにふれてご家族と連絡をとりあい、友人としてすごしていきたいという話をしてくれ、ご両親もとても喜んでいらっしゃるとうかがいました。たった数週間しか一緒にすごせなかった友人を、ずっと思い続け、友情を大切にしていく気持ち。自分のゼミの学生をほめるのは、わが子をほめるようで気がひけるのですが、その姿は、「人一人は大切なり」という同志社の精神を継承するかけがえのない姿に見えました。

ご家族からも、毎年図書の寄贈というお志をいただいております。ご本人が関心のあった漫画や、女性関係の資料を選定し、社会学部の書庫にコーナーを設け、記念文庫として永遠に守ってゆくことになっております。お互いの思いやりの交流がそこにあります。同志社の教育の柱としての「良心主義」の表れともいえると思います。

同志社では事故後、追悼の礼拝も催してきましたが、私も参加させていただきながら、亡くなった人を覚え、これからを考えるための場所、チャペルという祈りの場所を持っている同志社という場所のすばらしさを改めて実感いたしました。キリスト教の布教を目的とはしないけれども、キリスト教の精神を大切にする。その一つのあらわれとして私は受けとめました。

他の私学、官学との相異

同志社と同じように、明治期に産声をあげた私立の教育機関には、慶応や早稲田などがあります。しかし、これら同志社と並んで現在でも私学の名門とうたわれる学び舎には、知的な向上心や、立身出世という野心を奨励するポリシーは目立ちますが、倫理的、道徳的なバックボーンがいまひとつ見えにくいような気がいたします。試みに、各大学のホームページをあけてみますと、慶応大学の場合は「独立自尊」、早稲田大学は「学問の独立」「学問の活用」「模範国民の造就」といった文句が目にとびこんでまいりますが、「良心」というような倫理、道徳的な要素はみあたりません。学問をおさめ、自立するという目標は、最初に申しあげたような明治的なチャレンジ精神として、新島にも共有されているものですが、その背後に道徳的な支えがない場合、上昇志向や知的能力の追求のみが暴走してしまう危険性は否めません。

特に、官立学校の場合は、キリスト教といった特定の宗教的立場に基づいて教育することができないだけに、そうした倫理的、道徳的基盤が薄い傾向があるように思います。私は、今年で大学教員の仕事をはじめてはや二十一年目になり、いろいろな大学の学生さんと接してまいりましたが、率直な印象として、明治の西洋化、近代化の波のなかで誕生した男子エリート養成のための教育機関は、己れの立身出世や社会的成功をめざすあまり、利己的、自己中心的な発想に傾きがちな印象を抱くことがあります。もちろん、どんな大学にも良い学生さんはおられますが、自分の利益のために、モラルを疑うようなずるがしこいことをしても、道徳的なバックボーンというものをもたない無機質な教育機関においては、良心やモラルにまでふみこんで学生を導くことは難しいのではないでしょうか。そういう組織で育った人材が、日本の政界や官界の主流になってしまった場合、へたをすると近代日本全体の風潮が、己れの利益のみを追求してしまう危険性があります。そして残念ながら、事実そうなってきた部分もあるのではないでしょうか。

私は今日の話に、政治の問題を持ち出す意図はありません。しかし、昨今ある政治家が「友愛」ということをしきりに主張し、現代の政治には、背後にある価値観や理想といったものがみえてこないと言うのは、まさにこうした、近代日本の、特にエリート男子教育における道徳的な要素の欠落を背景にした発言とみることができます。

しかし、「友愛」がフラタニティーであると言ってみたところで、キリスト教主義についての理解がなければ、「友愛」や「愛」といった言葉が何を意味するのか、多くの日本人にはいまひとつピンとこず、上滑りやキザな印象をぬぐえません。新島がキリスト教主義を教育の柱のひとつとしたことの先見性と鋭さは、まさにここにあったのだと、近年の政治、社会の状況をみていて実感するようになりました。

キリスト教主義と女子教育

私自身、信者ではございませんが、中学時代には毎朝礼拝を受け、また毎週『聖書』の時間でキリスト教の説く「愛」について学んだことで、隣人愛、他者への思いやりという意味でのキリスト教の「愛」のあり方を、理想的実践はなかなか難しいとしても、少しは理解できたような気がしております。〝ご利益宗教〟ではなく、他者との絆を大切にする考えを、私は中学時代にキリスト教教育で学びました。日本人の多くは、初詣や七五三のお参りを習慣にしていますが、そこには、自己や家族の幸せや安寧を祈る気持ちがまずあり、他者への「愛」という教えは必ずしも目立ちません。キリスト教の祈りの中にも、自分の幸せへの願いはあるとは思いますが、現代の日本の社会や政治に欠けている精神があるとすれば、それは新島流には、「良心」と言うことができると思います。

近代の女子教育は、男子教育と違って良妻賢母主義を掲げ、明治五年の学制においても、まずは母としての役割を果たすことが重視されましたので、自分自身の立身出世など、女性は求めてはならない、という風潮がありました。これは、今日も日本女性の社会進出を潜在的に妨げている弊害がある一方で、数々のミッション・スクールの女子校にみられるようにキリスト教主義の教育が、日本女性の情操教育に大きな役割を果たし、男子教育には欠けていた精神的な面で貢献をしたことも重要であると思います。新島の場合、近代日本の教育者としては例外的に、がむしゃらに立身出世や独立自尊を求めるのではなく、「良心」や「愛」の重要性を、男女を問わず説こうとしたところに、独自の価値があると思います。こうした「同志社のこころ」を大切に、これからも本学が歩んでいければと存じます。

二〇〇九年六月二日　同志社スピリット・ウィーク　火曜チャペル・アワー「奨励」記録